

恵解山古墳第12次調査 関係者説明会資料

平成23年10月24日（月）

1. 調査期間等

調査名：恵解山古墳第12次調査（長岡京跡右京第1029次調査）

調査期間：平成23年9月26日～10月26日（予定）

調査面積：約100m²（予定）

調査主体：長岡京市教育委員会

調査機関：財団法人長岡京市埋蔵文化財センター

2. 調査の目的と調査区の設定（図1）

第1区 恵解山古墳の前方部西側面に取り付く土手の構築状況を明らかにするため、現存する前方部墳丘（第7次調査第1区近く）および前方部1段目基底石との関係を知り得る位置（第1区北・南）に調査区を設けた。

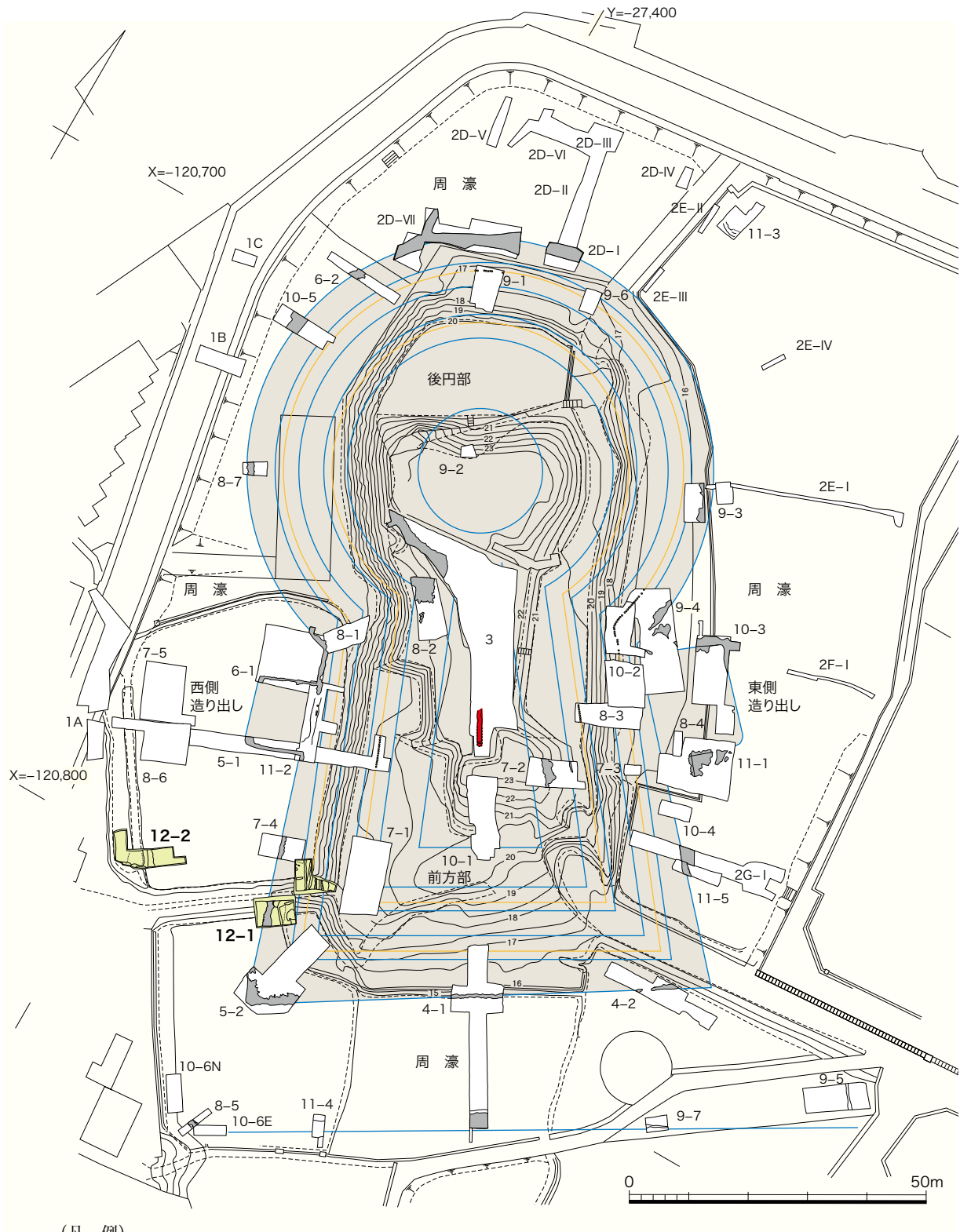
第2区 想定している周濠の西側には里道および国有水路（池）がある。これらが構築された状況を明らかにするとともに、恵解山古墳周濠の西辺に関する情報を得るため、水路内から里道、周濠にかけて調査区を設定した。

3. 調査成果の概要

第1区北（図2、写真1～3） 斜面部分では残存する前方部墳丘盛土と旧表土と考えられる黒褐色土、平坦部においては黒褐色土下の地山と前方部西側面に施された盛土を確認した。土手の下部には、土手構築以前（近世以降か）の畦畔および耕作土が埋もれており、墳丘側面の大規模な改変が行われた後に耕地として利用され、その後、耕地の畦畔を覆うように土手が築かれたことが明らかとなった。

第1区南（図2、写真4～6） 土手内部の状況は前述した第1区北と同様な状況であった。第1区南では、前方部西側1段目の基底石と斜面の葺石を確認することができた。基底石の検出位置はほぼ墳丘推定線に合致するものであったが、周濠側へ崩れている部分や中央部では基底石ラインの平面角が変化する部分が認められた。1段目斜面では区画石列1条と他に2条の区画石列の候補位置を確認した。1段目斜面は非常に緩やかであり、第5次調査第2区で確認された前方部西端に至る斜面の傾斜処理が行われているものと考えられる。

第2区（図3、写真7～9） 里道の下部で国有水路（池）への落ち込みと井戸状の大きな落ち込みを確認した。国有水路の掘削時期は明らかにできなかったが、里道については近代以降に構築された可能性が高くなった。里道の東側では、恵解山古墳の平坦な周濠底部が西側に向かって緩やかに立ち上がる状況を確認することができた。



(凡例)

- | | | | |
|---|-------------|---|---------------------------------|
| — | 古墳各段の復元線 | — | 埴輪列の復元線 (※ 復元線は平成22年時点の復元案に基づく) |
| | 今回の調査区 | | これまでの調査区 |
| | 葺石・礎敷または転落石 | ●●●●● | 埴輪列 |
| | | | 副葬品埋納施設 |

図1 恵解山古墳の墳丘復元と調査地の位置 (1/1000)

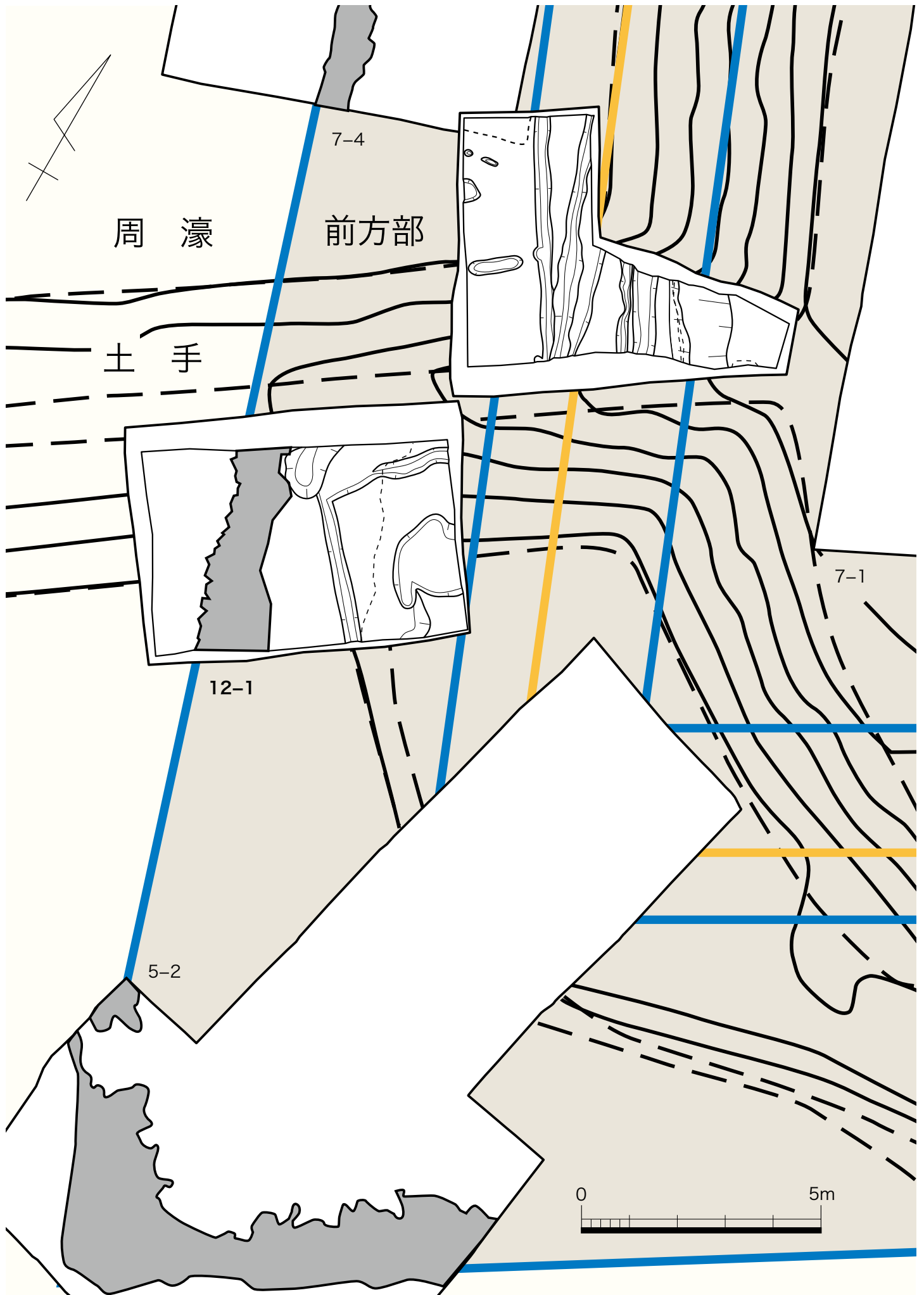


図2 第12次調査第1区検出遺構と周辺の調査区 (1/100)

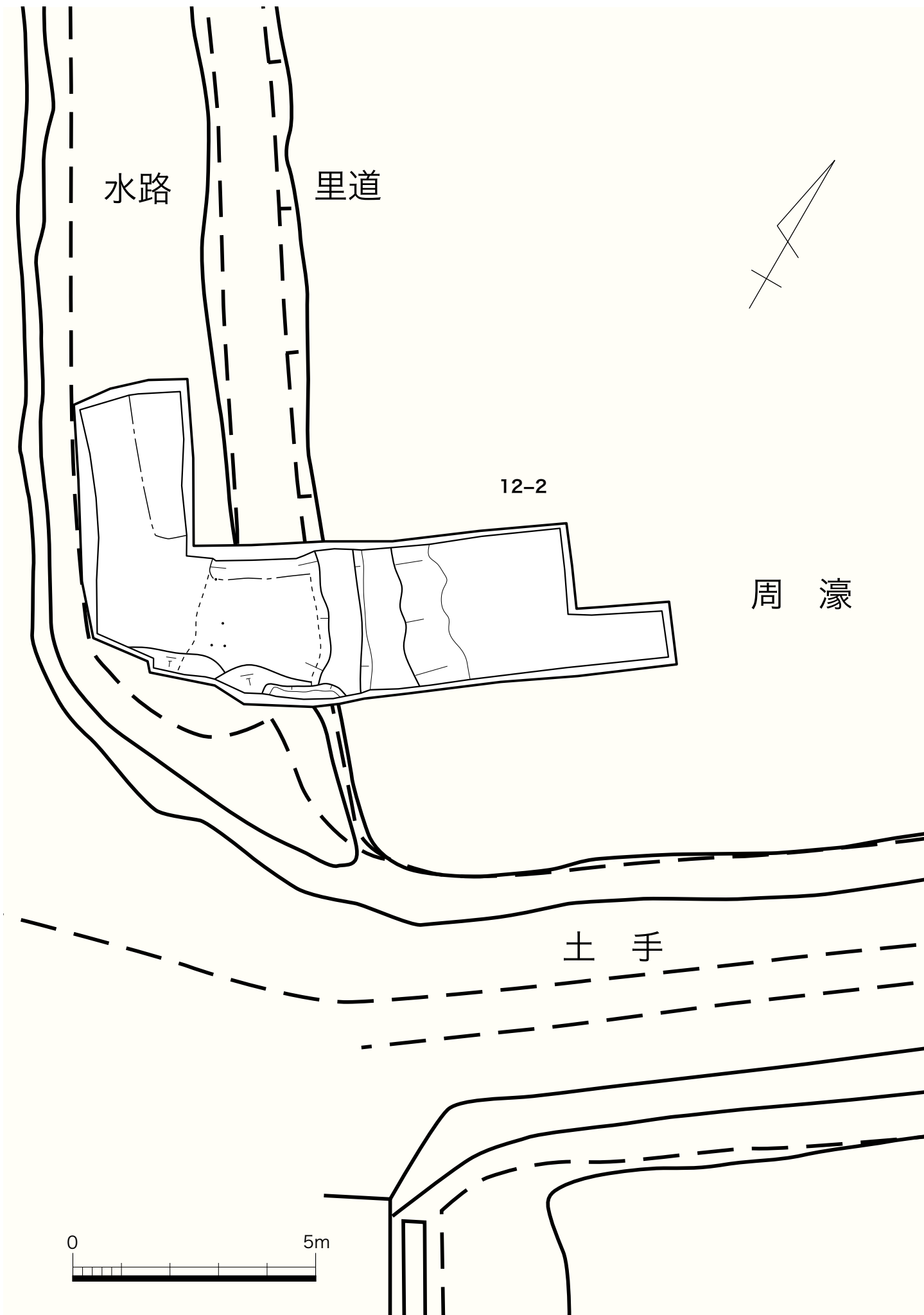


図3 第12次調査第2区検出遺構と周辺の地形 (1/100)



写真1 第1区北 完掘状況（北西から）



写真2 第1区北 墳丘盛土（南西から）



写真3 第1区 土手下部の状況（北東から）



写真4 第1区南 転落石検出状況（南から）



写真5 第1区南 完掘状況（南から）



写真6 第1区南 1段目斜面と周濠の状況（西から）



写真7 第2区 国有水路・里道・周濠の状況（南東から）



写真8 第2区 国有水路と里道下部（南東から）



写真9 第2区 周濠の西側への傾斜（北西から）